

第3回急変時対応部会を開催しました



○2月26日(水)、第3回急変時対応部会を開催しました。部会員6名、上越地域在宅医療推進センターコーディネーター1名、事務局4名が参加しました。

○2月12日(水)に入退院時連携推進部会と急変時対応部会の2部会合同で「医療と介護の連携に関する研修会～切れ目のない医療と介護の提供体制を構築するために～」を開催しました。研修会を含めた今年度の振り返りを行うとともに、来年度に向けて意見交換を行いました。

(1)研修会の振り返り

【出席者の感想及び職能団体としての意見を共有】

○ケアマネジャーの負担が大きいと感じた。職能団体としてもケアマネジャーを支えるために、訪問看護を使いやすいよう自分たちからも歩み寄っていった支えられるようにしたい。

○本人が在宅でどう生活したいか話し合える関係でいることが大切。地域連携連絡票を更新していつでも情報を伝えられるようにし、地域包括支援センターからケアマネジャーへの円滑な連携につなぎたい。

○ケアマネジャーの立場として、病院から何を求められているのかを知る機会となって良かった。

○病院は急変時の“最も悪い時”を起点としているため、元の在宅生活の状況が分からないまま退院支援を行っているが、家族は退院の際にフルリカバリーされて戻ってくることをイメージしている。退院した翌日に本人の状態が悪くなったことで、家族からの救急要請を受けることが少なくない。

【研修の成果及び課題】

○グループワークの意見として「お互いの役割を知る、視点の違いを知ることができた」、「早めに情報を伝える必要性が分かった」という意見が出ていた。また、研修の“ねらい”の一つであった「緊急時の連絡先を知る」という言葉も出されたことから、アウトカムは達成できた。

○グループワークやアンケートから「医療機関に報告する以前に、そもそも本人の意向の確認ができていなかった」と言う言葉が聞かれており、日頃の情報収集が不足していることが見えてきた。

○課題としては、研修の運営においてトークセッション時の音声聞き取りにくい場面があったことと、医療系の参加者が少なかったことが挙げられる。

○ケアマネジャーの参加が多かったことについては、ケアマネジャー側が医療機関との連携に困っていることが示唆された。医療系の参加者を増やすために、開催時間帯を医療職が出やすい時間帯への変更や、複数回の実施を検討していくこととする。

(2)令和6年度の振り返り

○令和6年度は、研修会の開催に向けて、現状を深掘りして、課題や真因を明確にするための意見交換を重ねた。

○他部会との合同であったが、研修会を開催することで、お互いの視点の違いや、日頃からの連携の必要性などが理解できた。

(3)令和7年度の取組について

○本人や家族に対する意向確認の必要性の理解、及び医療と介護の相互理解のための研修の継続が必要。

○入退院時にかかる連携の強化やACPの浸透など、他部会との情報共有を行いながら、取組を進めていく。